

松尾芭蕉ゆかりの地・小松

「奥の細道」紀行330年

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8130



二木紫石「芭蕉画像」(市立博物館蔵)

1689(元禄2)年3月27日、松尾芭蕉は門人の河合曾良を伴い、江戸・深川から東北・北陸地方を経て、大垣に到着するまでのおよそ2400キロメートル、150日に及ぶ「奥の細道」の旅に出立します。

この旅の途中、芭蕉は2度小松の地を訪れます。同じ土地を2度訪れたのは全国でも小松だけ。

以来330年、俳諧が盛んだった縁もあり、小松には芭蕉や当時の俳人ゆかりの足跡がたくさん残されています。

松尾芭蕉(1644~1694)

江戸時代の俳諧師。伊賀上野(現在の三重県伊賀市)生まれで、29歳のときに江戸に出る。各地を旅し、俳諧と紀行を交えた文学作品を残す。最もよく知られるのが『奥の細道』。

小松での芭蕉の行程と詠んだ句

芭蕉は、町人たちとの句会などで、有名な句を残しています。行程をたどりながら一部を見てみましょう。

◎7月24日(新暦9月7日) 金沢から小松へ。

◎7月25日 多太神社を訪れた後、本折日吉神社の句会に招かれて句を披露。

「しほらしき
名や小松吹く萩すゝき」

◎7月26日 歎生宅で句会に参加。

「ぬれて行や
人もおかしき雨の萩」

◎7月27日 菟橋神社を参詣し、多太神社に句を奉納。

「むざんやな
甲の下のきりぎりす」

◎8月2日 山中温泉に滞在中、小松の塵生より乾うどん2箱が届き、返書を送る。

◎8月5日 曾良と分かれ、再び小松へ。途中、那谷寺に寄り句を詠む。

「石山の石より白し秋の風」

「奥の細道」「能順」関連の特別展

博物館特別展「おくのほそ道 330年 芭蕉とこまつ」

芭蕉の小松来訪とその前後を中心に、芭蕉に関わった小松の人々や、ゆかりの地、来訪後の小松の俳諧文化を紹介します。

とき 9月21日(土)~11月24日(日)
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日
入館料 300円(高校生以下無料)
☎ 博物館 ☎22・0714

石川県立歴史博物館秋季特別展 「加賀前田家と北野天満宮」

重要文化財の文台や能順画像ほか小松天満宮所蔵資料が公開されます。

会期 9月14日(土)~11月4日(月・休)
※10月7日(月)は展示替えのため閉室
会場 石川県立歴史博物館
観覧料 一般800円、大学生640円、高校生以下無料
☎ 石川県立歴史博物館 ☎076・262・3236



「能順画像」(部分) 小松天満宮蔵



芭蕉ウオーク

「不易流行」をテーマに、芭蕉ゆかりの寺社や、現代の小松の顔であるこまつ杜やサイエンスヒルズこまつを巡るウォーキングを行います。

とき 10月14日(月・祝)8時30分~15時(受付:7時30分~)
集合場所 市役所前 コース距離 14km
参加費 500円(市外の方は、当日申し込みの場合1,000円)
申込期限 9月30日(月)
そのほか 参加資格、申込方法などの詳細は市ホームページをご覧ください。
☎ 医療保険サポートセンター ☎24・8058



▲朗読: 松浦このみ(朗読と音楽で空間をつくるgusuto de piro主宰)



▲演奏: 八木美知依(箏演奏家)



▲講師: 関屋淳子(旅恋代表、トラベルライター)

応募締切 8月30日(金)



1 奥の細道の旅の文学を楽しむ

紀行文「奥の細道」の魅力と音楽とともにお伝えします。

2 奥の細道の旅の楽しみ方を学ぶ

「奥の細道」のトラベルガイドを女性目線で解説します。

3 第8回小松ビジュアル俳句コンテスト表彰式

応募作品の中から、受賞作品の紹介と表彰を行います。

奥の細道紀行330年記念イベント
「奥の細道」の魅力と楽しみ方を学ぶイベントを開催します。
とき 11月23日(土・祝)14時30分~16時30分
ところ 粟津演舞場(井口町へ11)
問い合わせ 観光文化課 ☎24・8130

奥の細道こまつ『彩』のまちを歩く!

